



せきが はら たる い 関ヶ原宿～垂井宿

約 5.4 km

歩き旅

中山道ぎふ17宿とは？

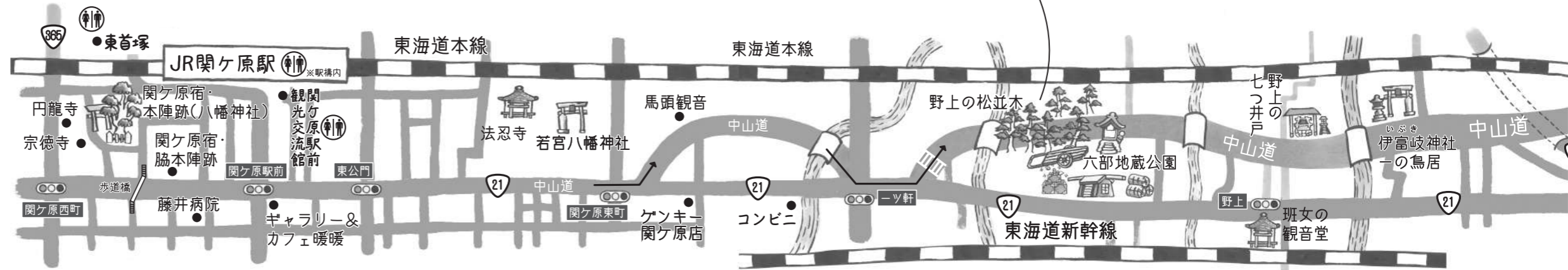
江戸時代に整備された五街道の一つである中山道は、江戸と京都を結ぶ重要な街道で、全長135里32丁(約534km)に69の宿場が置かれました。そのうちの17宿、126.5kmが岐阜県のみ濃地方を東西に横断しており、今も往時の面影を色濃く残しています。その土地の歴史や文化、隠れた魅力の発見を楽しむ街道観光は岐阜県の誇るべき観光資源であるとして、平成25年2月に「岐阜の宝もの」に認定されました。

野上の松並木

街道沿いの松並木は夏の日差しを避け、冬の防風・防雪の役目を果たし、旅人たちを助けていました。また、戦が起こった時には、この松を切り倒して砦を作る目的もあったといわれています。樹齢300年あまりの松が立ち並ぶ姿が残っているこの地は、中山道の中でも貴重な場所です。

関ヶ原宿

関ヶ原は、伊吹山と鈴鹿山脈に挟まれた隘路であったことから、672年の壬申の乱、1600年には関ヶ原の合戦と2度に渡る天下分け目の合戦の舞台となりました。周辺には2つの合戦の史跡が点在しており、歴史散歩が楽しめます。



お休み処 長浜屋

江戸時代に旅籠屋として栄えた築200年以上の長浜屋。13代将軍・徳川家定に嫁ぐ有姫ら総勢3,200名が垂井宿に泊まった際には、御輿担ぎが23名も泊まったという記録があります。

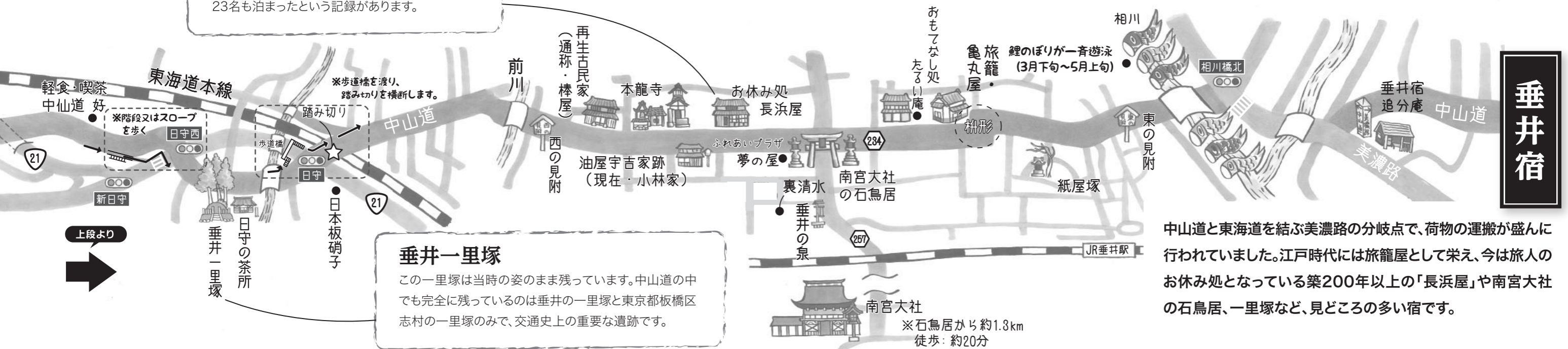
桃配山

壬申の乱の折、不破の村人たちは大海人皇子を励ますために特産品であった山桃を献上しました。喜んだ皇子は不破の大領を呼び、この桃を兵士の皆に配りたいと頼みます。皇子から配られた山桃で、数万の兵士の士気は高まり、大勝を果たしたといえます。関ヶ原の戦いでは、大海人皇子に倣って徳川家康がここに最初の陣を置きました。

Topics



野上行宮跡
※中山道から約300m
下段へつづく



垂井一里塚

この一里塚は当時の姿のまま残っています。中山道の中でも完全に残っているのは垂井の一里塚と東京都板橋区志村の一里塚のみで、交通史上の重要な遺跡です。

垂井宿

中山道と東海道を結ぶ美濃路の分岐点で、荷物の運搬が盛んに行われていました。江戸時代には旅籠屋として栄え、今は旅人のお休み処となっている築200年以上の「長浜屋」や南宮大社の石鳥居、一里塚など、見どころの多い宿です。